

40.

611.012

癌變性ヲ起セル腹膜後畸形腫
(1年11ヶ月男兒)ノ1例ニ就テ

岡山醫科大學病理學教室(主任田村教授)

助手 渡邊雅男

[昭和7年8月27日受稿]

*Aus dem Pathologischen Institut der Okayama Medizinischen Fakultät**(Direktor: Prof. O. Tamura).*

Über einen Fall von retroperitonealem, teilweise krebsig
entartetem Teratom.

Von

M. Watanabe.

Eingegangen am 27. Augst. 1932.

Das retroperitoneale Teratom, sich ohne Beziehung zu den Geschlechtsdrüsen entwickelt hat, soll sehr selten und embryologisch sehr instruktiv sein. Kürzlich habe ich in unserem pathologischen Institut einen solchen Teratomfall beobachtet. Es handelt sich um ein $1\frac{11}{12}$ jähriges männliches Kind. Der Tumor findet sich im retroperitonealen Bindegewebe der linken Niere und wächst nach oben und vorn. Der Tumor steht in keiner Beziehung zu den beiden Hoden, die im Skrotum descendiert sind. Seine Grösse: 14 cm - 10,3 cm - 9,5 cm. Sein Gewicht: 660 g. Der Tumor ist grob höckerig und unregelmässig oval. Auf der Schnittfläche sieht man zahlreiche Zysten in verschiedener Grösse. Histologisch zeigt sich embryonales Gewebe, als dessen Folge drei Keimblätter anzusehen sind. Als ektodermales Gewebe sind äussere Haut, Haare, Hirngewebe, Ganglien, die Anlage der Retina mit den Pigmentzellen, als mesodermales Gewebe sind Knorpel, Knochen (teilweise Knochenmark dabei) fibrilläres Bindegewebe, Fettgewebe, Lymphknötchen, glatte und quergestreifte Muskelfasern, Blutgefässe und Zähne, als endodermales Gewebe Magen und Darmschleimhaut

und Flimmerepithel zu sehen, aber er ist kein fertig entwickeltes Organ nachweisbar. Es ist, also, wohl ein kompliziertes Dermoid.

Bemerkenswert ist die krebsige Entartung des Teratoms. Diese Entartung verbreitet sich über die Hälfte des Tumors. Ausserdem sind Krebsmetastasen in der Leber und in der Pankreas vorhanden. Mikroskopisch zeigt die Entartung hauptsächlich das Bild von Carcinoma simplex und teilweise das von Carcinoma adenomatosum.

(Autoreferat.)

緒 言

三胚葉性ノ腫瘍ノ中所謂畸形腫ハ主トシテ下降セザル睾丸或ハ過剰ノ卵巢ヨリ發生セルモノ多シ、而シテ生殖腺ト關係ナクシテ發生スル畸形腫ハ甚ダ稀ニシテ且胎生學的ニモ興味アルモノナリ。本邦ニ於テモ其ノ報告ハ僅ニ3例ニ過ギズ、余ハ最近生後1年11箇月男兒ノ腹膜後ニ發生シタル畸形腫ニシテ、而モ甚ダ複雑ナル所見ヲ呈シ尙ホコレガ癌變性ヲ起シ肝臟竝ニ脾臟ニ轉位ヲ起セル剖檢例ニ接シタルニヨリ茲ニ其ノ所見ヲ報告セントス。

實 驗 例

患 者 伊 ○ 信 ○ 郎 1年11箇月

臨牀診斷 腹腔内腫瘍

病歴 遺傳的關係ナク只父ニ先天性梅毒ノ診斷ヲ受ケタル事アリ、患者ハ同胞2人其ノ長男ニシテ分娩ハ正規、生後5箇月目ニ感冒ノタメ本學小兒科ヲ訪ヒ其ノ際左腹部ニ腫瘍ノアルニ氣付ケリ。即チ肋骨弓下5cm 硬度稍々硬ク表面平滑ニシテ壓痛ナシ。肝臟ハ肋骨弓下2cm 當時腹痛嘔吐ナシ、黃疸或ハ特別ナル腹部膨隆ナシ、其ノ後腫瘍ハ次第ニ増大シタルモ一時「レントゲン」治療ノタメ一般狀態多少輕快シタル感アリタリ。

其ノ後猩紅熱ニ罹患シ急ニ腹部膨隆シ發熱ノタメ再度小兒科ヲ訪レテ入院ス。當時榮養少シク不良ニシテ皮膚蒼白心臓竝ニ肺臟ニ著變ヲ認メズ、腹部ハ膨隆シ右上腹部竝ニ左腹部ニ腫瘍ヲ觸ル、打診上全部濁音ヲ呈ス、壓痛ナシ、腹水ハ證明セズ、糞便竝ニ尿異狀ナシ、ワ氏反應陰性、水腫ナシ。入院後種種ナル手當ヲ行ヒタルモ漸次ニ腹部膨隆シ衰弱ノタ

メニ覺ル。依テ當病理學教室ニ廻附サレ剖檢ヲ行フ。

病理解剖的診斷

- (1) 癌變性ヲ起セル腹膜後畸形腫
- (2) 肝臟、脾臟轉位
- (3) 肺鬱血竝ニ無氣症
- (4) 腹水
- (5) 鬱血脾
- (6) 脂肪肝
- (7) 腎實質變性

剖檢所見 (死後14時間)

身長78cm, 體重11kg, 體格中等, 榮養不良, 皮膚蒼白, 死後強直ハ各關節ニ輕度ニ存在ス。屍斑ハ體ノ背部ニ存ス, 瞳孔兩側同大中等度ニ散大シ結膜ハ蒼白角膜ハ濁濁セリ, 頸部, 胸部, 四肢異狀ナシ, 外陰部輕度ノ陰囊水腫ヲ認ム。腹部ハ甚ダシク膨隆

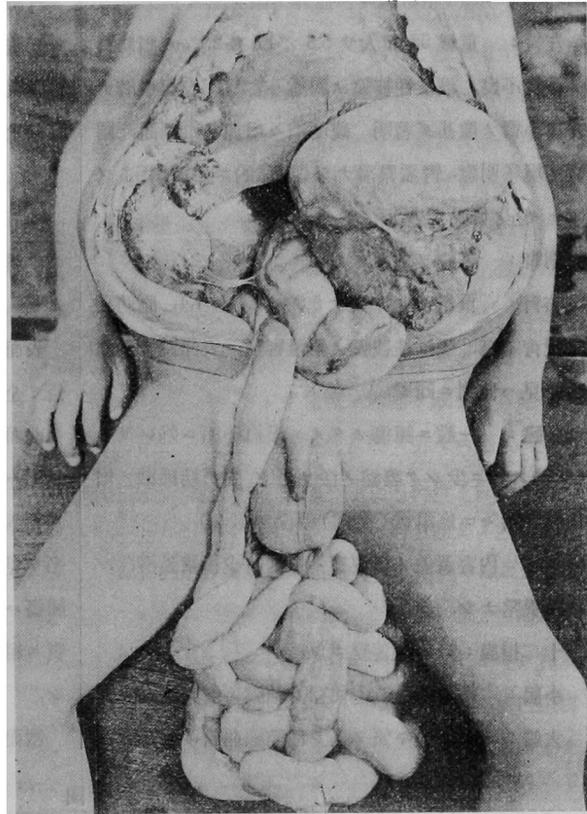
シ周圍約60cm之ヲ觸ルニ緊張シ著明ナル波動ヲ認ム。又兩側上腹部ニ硬キ部分ヲ觸ル。腹腔ヲ開クニ皮下筋組織並ニ脂肪組織ノ發育ハ不良ナリ。腹腔ヲ開クニ肝臟右葉ノ腫瘍ト左腹部ニ小兒頭大ノ腫瘍ヲ認ム。腹腔内ニハ約1000cmノ暗赤色ノ少シク溷濁セル液ヲ認ム。横隔膜ハ舉上サレ右第4、左第3肋骨ニ相當ス。大網ハ全ク上前方ニ卷縮サレ左側ノ腫瘍ヲ包ム。大網ノ脂肪組織ハ減退シ灰色汚穢ニシテ所々ニ血塊ヲ認ム。

腹壁漿膜並ニ腸管漿膜ハ一般ニ滑澤ナリ。腸間膜淋巴腺稍々腫脹シ蟲様突起異狀ナシ。肝臟ハ(後述)右葉ノ大半部ハ腫瘍化シ横膜並ニ腹壁ト纖維性ニ癒着ス。左葉前面ニ於テモ鶏卵大ノ腫瘍ノ突出セルヲ見ル。左腹部ノ腫瘍ハ不整橢圓形ニシテ左腹部ノ大部ヲ占メ右方ハ正中線ヨリ右方約1cmニ至リ左方ハ腹壁ト纖維性ノ癒着ヲナス。前面ハ大網ニヨリテ包マル。又其ノ基底ハ脊柱及ビ腹部大動脈ヨリ左方ニ位ス。脾臟ハ舉上サレ胃及ビ十二指腸ハ右上方並ニ前方ニ横行結腸ハ前右方ニ押シ出サル。小腸及ビ上行結腸、下行結腸ハ下方ニ壓迫セララル。右側ノ腎臟並ニ副腎ハ下方ニ壓迫セララル。

左腎ハ腫瘍ト後腹壁トノ間ニ埋没サレテ存シ常態ノ位置ヨリ少シク上方ニ在リ。脾臟ハ尾部頭部共ニ上方ニ壓迫セラレ腫瘍ノ被膜ニ密接ス。睪丸、副睪丸ハ陰囊中ニ下降シテ常位ニアリ其ノ他ノ部分ニハ異常ナシ。腫瘍ハ容易ニ手ヲ以テ剝離スルヲ得タリ(第1圖參照)。

胸腔ヲ開クニ胸腺ハ高度ニ萎縮シ(組織的ニモ萎縮ヲ認メタリ)。兩側胸腔内ニ約100ccノ帶黃暗赤色ノ少シク溷濁セル液ヲ容ル。其ノ他異常ノ癒着ヲ認メズ。心囊ヲ開クニ内ニ少量ノ黃色透明ノ液ヲ容ル

第 1 圖



内面滑澤ナリ。

心臓： 重量50g、形尋常大サ當屍手拳大、心尖ハ主トシテ左室ヨリナル。硬度尋常。心外膜滑澤、心筋少シク溷濁ス。内膜異常ナシ。兩室兩心房ノ大サ尋常總テノ瓣膜裝置及ビ大動脈起始部異常ナシ。冠狀動脈ノ走行尋常。卵圓孔ハ完全ニ閉鎖ス。

肺臟： 形大サ尋常ナルモ右上葉、下葉並ニ左上葉ハ血量ニノミ硬度増加シ空氣ノ含有ニ乏シ。組織的ニ鬱血並ニ無氣症ノ像ヲ呈ス。氣管枝粘膜炎亦細血管ノ充盈著明ナリ。肺門淋巴腺ハ小豌豆大ニ腫脹ス。

肝臟： 所見後述。

脾臟： 重量11.5g、大サ長サ9cm、幅4.4cm、高サ1.3cm 硬度少シク増加シ表面小皺襞ニ富ム。割

面血量少シク増加シ脾材著明ニシテ少シク腫脹ス。

濾胞ハ不明瞭(組織的ニ鬱血脾ノ像ヲ呈ス)。

左腎： 重量 55 g, 大サ 5.8 × 4.5 × 2.1 cm 脂肪囊ノ發育不良。纖維性被膜ノ剝離ハ容易。表面平滑ナルモ小腎ノ像甚ダ著明。硬度稍々増加ス。剖面, 兩質ノ境不明瞭。腎盂異常ナシ(組織的ニハ所謂「ネフローゼ」ノ像ヲ呈ス)。

副腎： 著變ヲ認メズ。

右腎： 重量 45 g, 大サ 5.5 × 4.4 × 1.4, 脂肪囊ノ發育不良。纖維性被膜ノ剝離容易。表面並ニ剖面ノ所見ハ他側ニ同ジ。

膀胱： 一般ニ腫瘍ノタメニ壓迫萎縮ニ陥レリ。(檢鏡スルニ少シク萎縮ノ像ヲ呈シ, 間質結締織ノ増加並ニ所々ニ癌組織(後述)轉位ヲ認ム)。

胃： 内容黄色ノ粘液様粥樣食餌少量漿膜滑澤, 粘膜異常ナシ。

十二指腸： 粘膜著變ナシ。

小腸： 粘液様ノ黄色便存シ粘膜著變ナシ。

大腸： 稍々硬キ便ヲ入レ粘膜細血管ノ充盈著明

ナル部分ヲ見ル。

直腸： 粘膜血管強度ニ怒張ス。

膀胱： 黄色ノ少シク溷濁セル尿ヲ少量ニ入ル。粘膜異常ナシ。

以上各臓器ニ於テ何等畸形ト認ムベキモノナシ。

肝臓ノ肉眼的所見

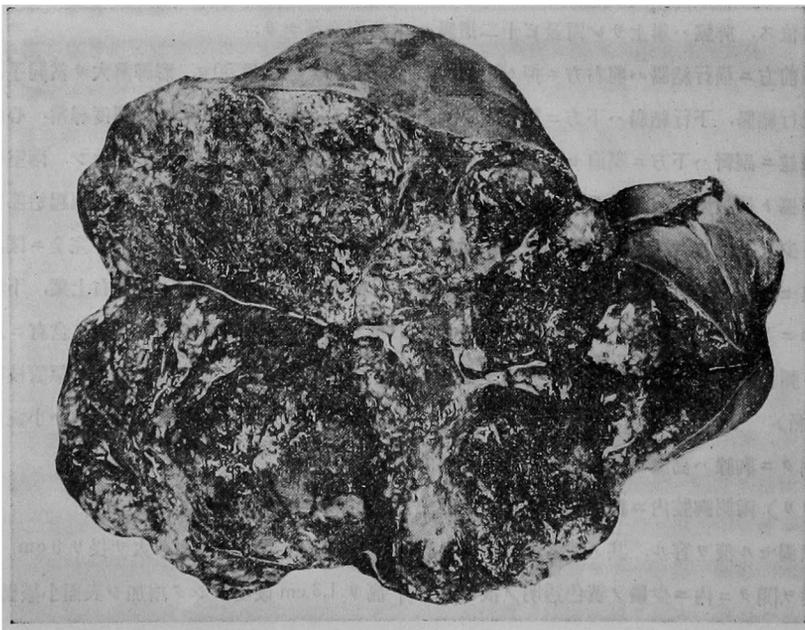
重量 1380 g 右葉 16.5 × 17 × 8.7

左葉 9.5 × 14.5 × 3.1

表面。 右葉ノ大部分ハ横隔膜ト纖維性ノ癒着ヲ營ミ全ク腫瘍化シ數箇ノ鶏卵大ノ結節ヲ認ム。左葉ノ前面ニ於テモ鶏卵大ノ腫瘍ノ突出セルヲ見ル。右側部ハ腹壁ト纖維性ノ癒着ヲナセル外ハ概ネ平滑。左右兩葉ノ境界部ニ約横徑 5 cm 長サ 8 cm ノ腫瘍結節ヲ見ル。左葉ノ左端ニ於テモ同様ノ隆起ヲ見ル。腫瘍ハ一般ニ血量ニ富ミ硬度髓樣彈性アリ。肝實質ニ相當スル部分ハ一般ニ強ク黄色ヲ呈シ弛緩シ脆シ。

剖面。 左葉ノ左端部ヲ除ク外ハ殆ド腫瘍ニヨリ

第 2 圖 肝



テ占居セラレタル感アリ。腫瘍ハ剖面ヨリ稍々膨隆シ硬度弾力性軟髓様、右葉ノ最大ノ腫瘍ハ剖面ニ於テ長徑約12cm 橢圓形ヲ呈シ所々ニ纖維素ノ附着セル部分アリ。色一般ニ灰白色ニシテ所々斑點狀ノ出血ヲ認ム。殊ニ左右兩葉ノ境界ニ於ケル腫瘍ハ殆ド全部赤血色ヲ呈ス。硬度其ノ他ノ所見ハ前記ノ腫瘍ニ同ジ。僅ニ殘レル肝實質ノ部分ハ所謂「ムスカトヌス」肝ノ像ヲ呈ス(第2圖參照)。

膽囊ハ中ニ中等量ノ黃綠色ノ稀薄ナル膽汁ヲ容レ粘膜ハ膽汁色素ヲ以テ滲潤サル。

腫瘍ノ肉眼的所見

長サ14cm, 幅10.3cm, 高9.5cm, 重量660g. 形、橢圓形、表面一般ニ平滑ニシテ纖維性囊ニヨリテ包マル。表面ヨリコレヲ壓スルニ大部分ハ弾力性軟ナルモ骨様ノ硬度ヲ有スル部分ヲ觸ル。就中前面中央ノ部分ニ於テ著シク一見混合腫瘍ヲ想起スルニ充分ナルモノアリ。

剖面。先ヅ中央ノ部分ニ於テ鉛直ニ割ヲ入レ左右ニ兩斷シ次ニ左右各々ニ於テコレガ剖面ニ平行ニ

更ニ剖面ヲ作りテ觀察スルニ主トシテ實質性ノ部分ト囊腫性ノ部分ヨリナル。前者ハ中央剖面ヨリ右半ニ多ク後者ハ左半ノ大部分ヲ占ム。即チ左半部ハ多房性卵巢性囊腫ノ外觀ヲ呈シ大ナルハ長徑15cmノモノヨリ小ナルハ胃針頭大ニ至ル多數ノ囊腫ヨリナル。囊腫ノ形ハ不規則ニシテ其ノ内面モ亦多クノモノハ平滑ニシテ光澤ヲ有スルモ或物ハ腸管内面ノ如ク小皺襞ヲ規則正シク有スルモノアリ。又囊腫中ニ不完全ナル障壁様ノモノヲ有スルモノアリ。囊腫ノ内容ハ水様、粘液様、膠様、粥様ノモノヲ有ス。實質性ノ部分ハ主トシテ囊腫ノ周圍ヲ取り圍ム結締組織様ノモノニ脂肪組織並ニ筋組織ヲ所々ニ認ム。又中央前面ノ部分ニ於テ切割ニ際シテ相當ノ硬度ヲ有スル骨組織ヲ認ム。其ノ附近ニハ約小豆大ノ白色光輝アル齒牙2箇ヲ認ム。又附近ノ長徑約4cmノ囊腫中ニ毛髮ヲ十數本認メタリ。右半部ハ其ノ前端ニ於テ2,3ノ囊腫ヲ認ムルノミニシテ他ハ殆ド全ク實質性ニシテ一様ノ造構ヲ呈シ硬度ハ軟色概ネ灰白色或ハ帶黃灰白色ニシテ髓様ノ觀ヲ呈ス。所々ニ血塊ヲ附着ス(第3圖參照)。

第3圖 畸形腫



腫瘍ノ顯微鏡的所見

已ニ肉眼的所見ニ於テ述ベタルガ如ク本腫瘍ハ大體ニ於テ2ツノ部分ヨリナル。即チ中央ヨリ右半ハ殆ド實質性ニシテ左半ハ主トシテ囊腫性ナリ。之ガ組織的ノ検査ヲ行ハンガタメニ先ニ割ヲ入レタル面ヲ各々適當ノ大サニ分割シコレニ一々番號ヲ附シテ(例ヘバ中央部剖面左側第1, 第2) 檢案ニ便ナラシメタリ。併シ右側ニ於テハ各剖面トモニ殆ド一様ノ造構ヲ呈スルヲ以テ肉眼標本トシテ貯藏シタリ。

而シテ染色ハ「ヘマトキシリン, エオジン」複染色ヲ初メ「ワンギーソン, マロリー, ワイゲルト」染色法ヲ行ヒタリ。

左側部第1剖面

本剖面ノ約 $\frac{2}{3}$ ハ囊腫ニシテ左上端部ニ於ケル長徑3.5 cmノ囊腫ヲ初メ大小無數ノ囊腫ヲ認ム。残り $\frac{1}{3}$ ハ實質性ニシテ種々ナル外觀ヲ呈ス。就中, 中央部ヨリ少シク左方ニ於テ骨組織ヲ多量ニ認メ其ノ附近ニ腦質ノ如キモノヲ見ル。又或ル囊腫中ニハ毛髮ヲ認メタリ。之等ヲ前述ノ如クシテ檢鏡スルニ次ノ如シ。尙ホ實質性ノ組織成分トシテノ滑平筋, 結締織, 脂肪組織並ニ血管ハ何レノ切片ニ於テモ認メラレルヲ以テ特別ノ増減ナキ限リ其ノ記載ハ省略シタリ。

標本第1: 本切片ハ剖面ノ左上端部ニシテ其ノ内側ハ剖面ノ左上隅ニ於ケル最大囊腫ノ壁ノ一部ヲナス。檢鏡スルニ外側ハ結締織ヨリナル被膜ニシテ少シク内部ニ至ルニ鬆粗ナル結締織組織アリ, 長橢圓形或ハ棒狀ノ核ヲ有スル胚細胞並ニ小圓形ノ細胞ヲ多數ニ認メ所々ニ少數ノ胎生期ノ神經細胞並ニ變性セル「グリヤ」細胞ヲ見ル。又石灰ノ沈着ヲ點狀ニ認ム。コノ部分ハ「ワンギーソン」染色ニ際シ「フクシン」ニ着染セズシテ「ピクリン」酸ニ輕ク着染ス。又一部色素細胞ノ集團セル部分アリ。恐ラク胎生期ノ腦神經組織ナラン。囊腫ノ壁ハ結締織性ナリ。壁

ノ周圍ニハ圓形細胞ノ浸潤ヲ認ム。

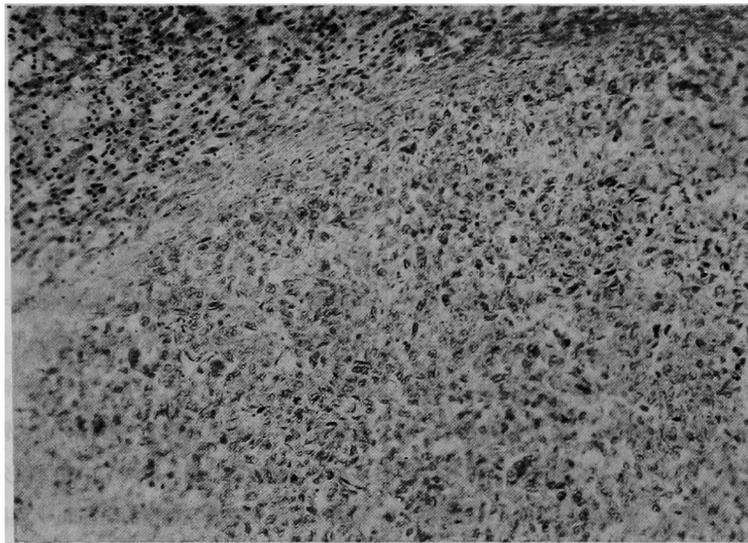
標本第2: 第1標本ニ續ク剖面ノ上中央ノ部ニシテ主トシテ囊腫性ナリ。即チ大小5ツノ囊腫ヲ認ム。其ノ1ツハ大ナルモノニシテ前標本ノ續キナリ。切片ノ上方ハ雀卵大ノ腔ヲナシ其ノ壁ハ幼若皮膚組織ヨリナル。其ノ下層ニハ結締織, 滑平筋並ニ單胞狀腺(主トシテ粘液腺)ヲ認ム。而シテ其ノ附近ニ所謂Thymozytenノ集團ヲ認ム。又上中央ノ部ニ2ツノ豌豆大ノ囊腫アリ。重層扁平上皮ヨリナリ上皮ノ剝離シタルモノヲ囊腔中ニ認ム。今1ツハ肉眼的ニ大サ長徑0.6 cmノ橢圓形ノモノニシテ切片ノ下中央ノ部ニ位シ粘液ヲ充滿ス。壁ハ結締織性ニシテ其ノ周圍ニ遊走細胞ノ浸潤ヲ認ム。右半ノ大部分ハ前述ノ腦神經組織ヨリナル。

標本第3: 前標本ニ續ク剖面ノ右上隅ノ部分ニシテ囊腔6分ニ實質4分ノ割合ナリ。大小10箇ノ囊腫ヲ認ム。先ヅ切片ノ右方ニ於テ半島狀ニ突出シタル實質ヲ境トシテ上下ニ2箇ノ大ナル囊腫アリテ其壁ハ下方ノモノハ重層扁平上皮ヨリナルモ kubischナル上皮細胞ガ單層ニ排列セル部分モアリ。夫等ノ上皮細胞ハ脱落セルモノ多シ。上側ノモノハ結締織性ナリ, 又切片ノ左方ニハ不規則ナル形ヲナセル2, 3ノ小囊腫アリ。左端ノモノハ其ノ壁凸凹不平ニシテ肉眼上, 腸管壁ヲ想ハシメタルモ組織的ニハ結締織性ニシテ他ノモノハ重層或ハ單層ノ扁平上皮ヨリナル。而シテ其ノ附近ノ細長キ不規則ナル管腔ヲ檢鏡スルニ單層ノ圓柱上皮ニヨリテ覆ハレ, 其ノ下層ハ纖維性ノ結締織ヨリナリ淋巴細胞ノ集團セル臚胞ヲ認メ上皮ノ一部ハ少シク粘膜下ニ潛入シテ腺狀造構ヲ呈ス。其ノ狀最モヨク胃粘膜ヲ推定セシム。附近ノ今1ツノ囊腫ハ圓柱氈毛上皮ニヨリテ覆ハル。又右上隅ノ囊腫モ氈毛圓柱上皮ニヨリテ覆ハレ而シテ附近ニ軟骨ヲ認ム。之等ノ所見ハ氣道ノ存在ヲ想ハシム。又粘液ヲ充滿シタル帽針頭大ノ囊腫アリ。壁ハ主トシテ單層上皮ニヨリテ覆ハル。本切片ノ約

中央ニシテ肉眼的ニ帶黃灰白色ニ見エル部分アリ。鏡檢スルニ、癌性組織ニシテ胞體ハ淋巴球ノ4, 5倍大、多角ニシテ「クロマチン」並ニ原形質ニ富ム。細胞ハ一様ニ排列シ部分的ニ少量ノ結締織ニヨリテ圍繞セララル胞巢ヲ形成ス。核分裂像ニ乏シ。所々壞

死性ニナル部分ヲ相當ニ認ム。即チ以上ノ所見ニヨリ單純癌ニ屬スルモノナリ。コノ癌組織ノ右上方ニ2箇ノ米粒大ノ淋巴腺ヲ認メ且淋巴腺内ニ癌細胞ノ浸潤ヲ認ム。

第 4 圖 癌組織ノ肝臟轉位



標本第4: 剖面ノ約中央ノ部分ニシテ囊腫性ト實質性トハ相半バス。肉眼的ニハ興味アル所見ヲ呈シ右上並ニ中央上部ニ於ケル小雀卵大ノ囊腫中ニ十數本ノ毛髮ヲ認ム。檢鏡スルニ之等ノ囊腫ハ中ニ粘液ヲ入レ壁ハ幼若ナル皮膚ノ造構ヲ呈ス。又切片ノ左方ニ於テ數箇ノ粟粒大ヨリ帽針頭大ニ至ル囊腫アリ。内容ハ概ネ粘液ニシテ壁ハ重層扁平上皮ヨリナル。之等ノ小囊腫ノ間ニハ結締織並ニ滑平筋良ク發育ス。次ニ切片ノ左上端ニ於テ小骨組織ヲ認ム。其ノ周圍ニハ結締織並ニ横紋筋アリ。横紋筋ハ甚ダ不完成ナルモノニシテ横紋ハ屢々明瞭ニ認メ得ズ。右下隅ニハ比較的多量ノ腦質アリ。石灰ノ沈着アリテ腦砂狀ヲ呈ス。所々ニ圓形ノ核ヲ有シ骰子狀ヲナセル細胞ガ單層或ハ複層ニ排列シテ腦質ヲ包ム部分アリ。コレヲ「ペンヂラ」細胞ト考ヘラル。而シテ其ノ

外方ニ硬腦膜ヲシキモノヲ見ル。コノ部分ニハ不規則ニ排列セル色素細胞アリ。又切片ノ右中央ノ部分ニ骨組織存在シ而モ周圍ニハ骨膜ヲ有シ中ニハ骨髓ヲ有ス。コノ部分ヨリ左下半ハ血量ニ富メル癌組織ヨリナル。一部出血セルヲ認ム。左端ハ重層扁平上皮ヨリナル囊腫ノ壁ノ一部ヲナス。壁ノ周邊ハ結締織並ニ彈力纖維ノ發育佳良ナリ。

標本第5: 前標本ニ續ク剖面ノ中央ノ部分ニシテ主トシテ實質性ナリ。然レドモ下方ニハ2ツノ小雀卵大ノ囊腫アリ内容不明ナルモ壁ハ重層扁平上皮ヨリナル。本切片ノ所々ニ殊ニ右側並ニ右下隅ニ不規則ニ列ベル骨組織並ニ軟骨組織ヲ見ル。又右下方ニハ「ペンヂラ」細胞ガ管腺狀ヲナシテ排列スルヲ見ル。左半ノ大部分ハ癌組織ニヨリテ占居サル。コノ部ノ癌組織ハ腺狀ノ造構ヲナセル部分多ク比較的

=血管ノ分布良好ニシテ血管ハイツレモ充血ス。

標本第6: 前者ニ續ク中右端ノ部分ニシテ囊腫性ノ部6割, 實質性ノ部4割, 左邊部ハ前切片ニ續イテ癌組織ヨリナル。中央ノ部分ニ2ツノ雀卵大ノ囊腫アリ。何レモ重層扁平上皮ニヨリテ覆ハル。一部毳毛上皮ノ部分モアリ。尙ホ2,3ノ小囊腫アリ。壁ハ重層圓柱上皮ヨリナル。切片ノ左上隅ニ神經節ヲ認ム。神經節細胞竝ニ他ノ神經成分ヲ認ム。又右上隅ノ部ニハ種々ナル形ヲナセル複管狀腺ヲ見ル。其ノ他所々ニ島狀ニ軟骨組織存在ス。

標本第7: 剖面ノ右下隅ノ部ニシテ第1標本ト連絡セル部分ナリ。即チ上端ハ大ナル囊腫ノ壁ヲナス。其ノ他ハ實質性ナリ。組織的ニ見ルニ先ヅ最大囊腫ノ内面ハ前述ノ如ク結締織性ナルモ一部幼若ナル皮膚ノ部分ヲモ認ム。切片ノ左方ニ長橢圓形ニシテ長徑1.5cmノ囊腫アリ。壁ハ前者ト同様結締織性ニシテトモニ其ノ周圍ニ淋巴球ノ浸潤著明ナリ。其ノ他粘液ヲ容レタル帽針頭大ノ囊腫ヲ1ツ認ム。壁ハ複層ニ排列セル散子狀ノ細胞ヨリナル。又右方ノ大部ハ腦質ヨリナル。

標本第8: 前切片ノ右方ノ續キニシテ腔ト實質トハ相半バス。先ヅ切片ノ左方ニ於テ長サ2.5cmノ骨組織アリ。其ノ周圍ニハ結締織其ノ中ニハ骨組織ヲ多量ニ見ル。其ノ右方ニハ長徑約2cmノ橢圓形ノ囊腫アリ。壁ハ多層扁平上皮ニヨリテ圍繞サレ中ニハ神經組織ノ廢物ヲ入ル。又左端部ニモ雀卵大ノ囊腫アリ。壁ハ重層扁平上皮ヨリナル。ソレヨリ左方ニ膠質ヲ入レタル小囊腫アリ。壁ハ不規則ニ排列セル上皮細胞ヨリナル。實質ノ部ハ良ク結締織竝ニ彈力纖維發育シ所々ニ島狀ニ軟骨組織アリ。

標本第9: 剖面ノ左下端ニシテ主トシテ實質性ノ部分ヨリナル。然レドモ所々ニ2,3ノ豌豆大ノ囊腫アリ。壁ハ何レモ重層扁平上皮ナリ。實質ノ部分ハ右方ノ一部ハ壞死性ニナルモ左方ハ前述ノ粗ナル腦神經組織ヨリナリ。其ノ外側ニハ結締織竝ニ幼稚

ナル横紋筋ヲ認ム。其ノ他ハ脂肪組織良ク發育シ左下隅ニハ比較的完全ナル淋巴腺組織ヲ認ム。血管ノ發育ハ良好ニシテ何レモ充血ヲ示ス。

又少量ノ軟骨組織ヲ所々ニ認ム。

第2剖面

此剖面ニ於ケル實質性ト囊腫性トノ面積ノ比ハ略ホ6:4ナリ。種々ナル大サノ囊腫中ニハ「コロイド」様ノモノヲ充滿スルモノ多ク、其ノ壁ハ滑澤ナルモ或ルモノハ腸管粘膜ノ如キ皺襞ヲ有スルモノアリ。實質性ノ部分ハ前剖面ニ比シテ骨組織ヲ認ムル事少シ。右上方ニ腦質様ノモノヲ見ル外總テ種々雜多ノ像ヲ呈ス。

標本A: 第2剖面ノ左上隅ノ部分ニシテ主トシテ實質性ナルモ残り尙ハ囊腫性ナリ。上邊縁部ハ纖維性ノ厚キ被膜ニシテ下半ノ大部分ハ骨組織ヲ以テ占據サル。骨組織ハ完全ニ發育シ中ニ骨髓組織ヲ有スルモ造血装置ハ認め得ズ。中央ノ部分ハ壞死性ニシテソレヨリ左方ニ直徑約1.2cmノ囊腫アリ。壁ハ結締織ヨリナル。左下方ニ於テ吾人ノ注意ヲ惹キタルハ色素細胞ガ弧ヲ描イテ重層ニ排列シ1ツノ壁ヲ形成セル事ナリ。而シテ弧内ノ組織ハ腦質ニシテ多數ノ胚細胞及ビ「グリヤ」細胞ヲ見ル。色素細胞壁ト外壁ハ硬腦膜類似ノ所見ヲ呈ス。

標本B: 前者ニ續イテ剖面ノ右上邊ノ標本ナリ。此切片ハ大體ニ於テ三再形ヲナシ主トシテ實質性ナリ。比較的複雑ナル所見ヲ呈ス。切片ノ約中央ノ部分ニ長徑約1.0cmノ囊腫2ツ存在シトモニ中ニ「コロイド」ヲ充滿シ壁ハ多層毳毛上皮ヨリナル。而シテ比較的染色質ノ少キ圓形ノ核ヲ有シ原形質ノ少キ細胞ノ集簇アリ。恰モ網膜ニ見ラルルガ如キ各層ノ排列ノ幾分ヲ不完全ト認ム。コレガ基底ニハ黑色ノ色素細胞ヲ認ム。之等ノ所見ハ網膜ノ萌芽ヲ考フルニ不十分ナリヤ。又下中央ニ於テモ2ツノ豌豆大ノ囊腫ヲ認ム。中ニ粘液ヲ入レ壁ハ重層扁平上皮ヨ

ヲナル。周圍ニハ小圓形細胞ノ浸潤著明ナリ。中央ノ部分ハ肉眼的ニモ腦質ノ觀ヲ呈シ組織的ニ「グリヤ」細胞並ニ神經節細胞ヲ多數ニ見完全ニ發育シタル腦質ニシテ一部ニペンヂウミ細胞ニヨリテ圍マレタル部分ハ腦室ヲ思ハシム。石灰ノ沈着ヲ腦砂狀ニ認ム。又脈絡膜叢ノ如キモノアリ。右下隅ニ於テ2, 3小囊腫ノ集合セル部分ノ附近ニハ種々ナル形ヲナセル色素細胞ヲ見ル事ヲ得。其ノ他ハ骨組織, 筋組織並ニ脂肪組織ナリ。

標本C: 剖面ノ左側中央ノ部ニシテ腔7, 實質3ノ割合ナリ。先ヅ左端ハ厚キ纖維性ノ被膜ヨリナリ其ノ内側ニ直徑3cmノ不整形ノ囊腫アリ。壁ハ結締織ヨリナル。囊腫ノ一部ハ溝ノ如ク細クナリテ下方ニ續ク, 亦切片ノ右方ニ直徑2.5cmノ囊腫アリテ粘液ヲ容ル壁ハ結締織ヨリナル。下方ノモノハ圓柱氈毛上皮ヨリナル。右上半部ニハ多クノ腦神經組織ヲ見ル。石灰ノ沈着又著明ナリ。

標本D: 剖面ノ中央部分ニシテ切片ノ大半ハ下中央ヨリ半島狀ニ突出セル實質ヲ境ニ左右ニ2箇ノ大ナル囊腫アリ。其ノ左方ノモノハ幼若ナル皮膚組織ヨリナリ, 右方ノモノハ結締織性ノ壁ヨリナル。左上邊ニ小雀卵大ノ囊腫アリ壁ハ重層扁平上皮ヨリナルモ一部ハ kubisch ノ細胞ガ單層ニ排セル部分モアリ。壁ノ周圍ニハ圓形細胞ノ浸潤著明ナリ。更ニ其ノ周邊部ニハ粘液腺ヲ多數ニ認ム。尙ホコノ囊腫ノ内容ハ「コロイド」ニシテ膠質細胞ヲ多數ニ認ム。又右上邊ニ於テモ小豌豆大ノ囊腫アリ, 壁ハ重層扁平上皮ヨリナル。實質性ノ部分ハ右半分ハ癌組織ニヨリテ占據サル。左下方ハ腦神經組織ニシテ脂肪顆粒細胞ヲ多數ニ見ル。中央ノ部分ニハ骨組織存シ其ノ附近ニ於テニペンヂウミ細胞ノ多數ニ排列シ神經組織ノ増殖像ヲ見ル事ヲ得。

標本E: 本切片ハ剖面ノ中央右端ノ部ニシテ癌組織, 骨組織並ニ2, 3小囊腫ヲ見ル外著變ナシ。

標本F: 剖面ノ左下端ノ部ニシテ實質性ト囊腫

性ノ部分トハ相半バズ。切片ノ左下方並ニ右上方ニ於テ雀卵大ノ囊腫アリテ壁ハ結締織性ナリ。壁ノ周圍ニハ圓形細胞ノ浸潤著明ナリ。又2, 3小囊腫ヲ認ムルモ共ニ壁ハ重層扁平上皮ヨリナル。

標本G: 前ニ續ク左方ノ部分ニシテ實質6, 腔4ノ割合ニ存ス囊腫ハ大小數箇アリ或ハ粘液, 或ハ漿液ヲ入ル。壁ハ何レモ重層扁平上皮ナリ。右方ノ大部分ハ癌組織ニシテ腺癌様ノ構造ヲ有ス。右下方ニハ腦神經組織ヲ認ム。

標本H: コノ部分ハ剖面ノ右下隅ノ部ニシテ切片ノ右方ニ2ツノ雀卵大及ビ豌豆大ノ囊腫アリトモニ重層扁平上皮ニリテ覆ハル。外側ハ纖維性ノ被膜ヨリナリ, 左方ノ大部分ハ癌組織ニヨリテ占據サル。尙ホ左端ニ1ツノ淋巴腺組織ヲ認ム。

對側第1剖面

剖面ノ性狀ハ前者ト同様複雑ナルモ主トシテ實質性ト囊腫性ノ部分ヨリナル。上半部ハ實質性ニシテ下半部ニ於テ大小ノ囊腫ヲ約14箇ヲ認ム。上半部ノ實質性ノ部分ハ灰白色ノ骨髓様ノ外觀ヲ呈スルモノ或ハ黃白色ニシテ所々ニ血液ヲ混ジテ全ク一様ノ觀ヲ呈ス。下方ノ囊腫ハ大ナルハ直徑5.8cmニ達スル大ナルモノアリ小ナルハ全ク帽針頭大ナリ。而シテ其ノ壁ハ一般ニ滑澤ニシテ内容ハ全ク存セズ, 或ルモノハ腸管内面ノ如キ外觀ヲ呈スルモノアリ。尙ホ左上邊部ニ1箇ノ齒牙狀ノモノヲ認メ得タリ。本剖面ハ前述ノ如ク肉眼標本トシテ保存シ其ノ一部分ヲ切り出シテ検査シタリ。

先ヅ中央下方ニアル腸管粘膜ノ外觀ヲ呈スル部分ヲ檢スルニ壁ハ結締織性ニシテ粘膜ヲ認メズ。然レドモ其ノ下方ニ圓柱氈毛上皮ノ排列セル腔ヲ認メ更ニ其ノ附近ニ單層ノ圓柱上皮ニヨリテ被覆サレタル腸管粘膜ニ近似セル部分ヲ認ム。粘膜下層並ニ筋層ハ良ク發育セリ。次ニ下方ノ大ナル囊腫壁ヲ檢スルニ矢張り結締織性ノモノヨリナル。又灰白色ニシテ

脳質様ノ觀ヲ呈スル部分ヲ檢鏡スルニ其ノ部分ハ已ニ度々記載セル所ノ腦神經様組織ニシテ血管甚ダ擴張ス。次ニ齒牙ニ近ク肉眼的ニ黃白色ニシテ血液ヲ混ズル部分ヲ檢鏡スルニ癌組織ニシテ癌細胞ハ一様ニ排列シ少量ノ結締織コレヲ圍繞シ所々ニ出血ヲ認ム。

第 2 剖面

左隅ノ一部ヲ除ク他ハ全ク實質性ニシテ肉眼的ニ

一様ノ觀ヲ呈ス。隅ニハ 2, 3 ノ囊腫ヲ認ム。組織的ニコレヲ檢スルニ其ノ大部分ハ壞死性ニシテ所々殊ニ血管ニ近キ部分ニ於テ一部ニ腺様ノ構造ヲナセル癌組織ヲ認ム。

第 3 剖面

全ク實質性ニシテ纖維性ノ厚キ被膜ノ他ハ大部分ハ壞死性トナリ所々ニ殊ニ血管ノ近クニ於テ腺様ノ構造ヲナセル癌組織ヲ認ム。

考 察

腹膜後畸形腫ノ構造ハ甚ダ複雑ニシテ明カニ三胚葉性ノ組織ヨリナルヲ知レリ。

今之ヲ已ニ報告サレタル類似ノ例ト比較考察スルニ何レノ例ニ於テモ骨ハ甚ダ良ク發育スルモノニシテ余ノ例ニ於テモ良ク發育セリ、軟骨モ亦同様ナリ。

齒牙ハ畸形腫腫ニハ何故カ稀ナルガ如ク Schönholz, 金子氏ノ例ニ於テ僅ニ一萌芽ヲ發見シタルニ過ギザルモ余ノ例ニ於テハ完全ナルモノニハアラザレドモ 4 齒萌芽ヲ發見シ得タリ。筋組織トシテハ何レノ例ニ於テモ滑平筋甚ダ多量ニシテ本例ニ於テモ多量ニ認メ得タリ。横紋筋ハ余ノ例ニ於テハ甚ダ少數ニシテ尙ホ其ノ發育モ不完全ナルモノナリキ。循環器系統トシテハ血管甚ダ多ク且内膜中膜外膜トモニ良ク發達セリ。心臟ハ何レノ例ニ於テモコレヲ存シタルモノナシ。余ノ例ニ於テモ亦然リ。

呼吸器系統トシテハ絨毛上皮ヲ認メタルノミニシテ氣管ヲ暗示スルニ過ギズ。

消化器系統ニ於テハ報告例ノ大多數ニ於テ良ク發育セル腸管ヲ認メタルモ余ノ例ニ於テハ不完全ナル胃粘膜竝ニ腸管粘膜ラシキモノヲ一部發見シ得タルノミ。

神經系統ハ殆ド何レノ例ニ於テモ多少ニ拘ラズ認メラルルモノニシテ余ノ例ニ於テモ胎生ノ各期ニ於ケル腦質、神經節竝ニ神經節細胞ヲ認メタリ。而シテ一部ノ腦質ノ周邊ニハ硬腦膜類似ノ所見ヲモ認メタリ。然レドモ小腦ラシキ組織ハ認メ得ザリキ。尙ホ腦質ニハ石灰ノ沈着ヲ腦砂狀ニ認メタリ。

内分泌腺トシテハ胸腺ヲ認メタル例アルモ余ノ例ニ於テハ一部所謂 Thymozyten ノ集團ヲ認メタルノミニシテ完全ナル胸腺ハ發見シ得ザリキ。

感覺器トシテハ網膜ノ萌芽ラシキモノヲ認メタリ。金子氏モ同様ノモノヲ見タルコトヲ報告セリ。Montgomery ハ眼ノ萌芽ヲ認メタリ。尙ホ余ノ例ニ於テハ軀幹ラシキモノヲ認メ得ズ。之ニ關シテハ Koenbach 及ビ Budde ハ畸形腫ト云フモノヨリモ寧ろ胎兒箱入ト認ムベキ例ニ於テ明カニ頭竝ニ軀幹ヲ區別シ得ルモノヲ報ゼリ。津田教授モ亦稍々コレニ近キモノヲ見タリ。

金子氏ハ頭蓋ヲ證明シタリ。

Marchand ハ硬腦膜及ビ神經物質ヲ有スル頭蓋腔ノ痕跡ノ存スルモノヲ報ゼリ。尙ホ器官トシテハ完全ナル發育ヲナセルヲ見ザリキ。余ノ例ハ他ノ報告例ト異リ特ニ注目スルニ價スルハ畸形腫ノ一部ガ癌變性ヲ起セル事ニシテ前述ノ如ク癌組織ハ一部腺癌ノ像ヲ呈スルモ大部分ハ單純癌ノ像ヲ呈シ明カニ惡性ナル事ヲ示シ尙ホコレガ肝臟ニ轉位セル事ナリ。

畸形腫ガ惡性ヲ呈スルハ主トシテ實質型ノモノヲ以テ然リトセラルルモ何等確固タル論據ナシ。而シテ斯クノ如キハ生殖腺殊ニ睾丸ニ發生セルモノニ見ラルト云フ。余ノ例ハ全く生殖腺ト關係ナクシテ發生シタル畸形腫ニシテ加フルニ癌變性ヲ起セルモノニシテ文獻ニヨリテ先例ヲ求ムルニコレヲ發見スルヲ得ザリキ。

今強ヒテ文獻ニヨリテ類似ノ例ヲ求メンニ。

津田教授ハ生後1年6箇月ノ男兒ニ發生セル畸形腫ニ於テ腸管ノ或ル部位ニ於ケル平滑筋層中ニ癌細胞ノ浸潤ヲ證明シタル例ヲ報告セルモ癌組織ハ認め得ザリキ。

Montgomery (1898) ハ12歳ノ少女ノ腹腔内畸形腫ヲ手術ニヨリテ剔出セルモノニ於テ腺腫性癌ヲ認め後ニ再發シテ死セル例ヲ報ゼリ。

Teller ハ(1904)54歳ノ男子ノ腹膜後ニ發生セル混合腫瘍ニ於テ淋巴肉腫ト癌腫ノ部分アリテ轉位セルモノノ例ヲ報ゼリ。

Pilliet (1888) ハ24歳ノ女性ノ畸形腫ニ於テ脊柱ト大動脈トノ前ニ密接シ左ハ腎臟ノ前ニ位シ其ノ發生點明ナラザルモノニ於テ肉腫組織ノ存スル例ヲ記載セリ。余ノ例ハ癌組織ガ畸形腫ノ如何ナル部分ヨリ發生シタルヤ又何時頃ヨリ出來タルカハ推斷シ得ズ。只興味ハ本例ノ如キ幼兒ニ生ジタル畸形腫ガ癌變性ヲ起シソレガ肝臟ニ轉位セル點ニアリ。尙ホ畸形腫ノ發生スル性的關係ニ就テ見ルニ特別ナル意味ハ存セルガ如シト雖モ Wilms 其ノ他ノ學者ハ卵巢ノ關係ヨリ女性ニ多シト云フ。然レドモ余ノ得タル文獻例及ビ余ノ例ニ就テ見ルニ16例中(1例ハ不明ニ就キ除外)男9ニ對シ女7ノ割合ニシテ寧ロ男性ニ多シ。年齡的ノ關係ニ就テ調査スルニ腹膜後畸形腫ヲ發見セラレタル年齡ハ3歳以下ノモノ甚ダ多クシテコレヨリ20歳マデハナク20代ニ3例アリ。33歳ヲ以テ最高ノ年齡トス。併シ一般ニ汎ク腹腔内畸形腫トシテ觀察スベキハ Porges ノ72歳ノ老年ニ於ケル報告例アリ。

本例ノ畸形腫ガ如何ニシテ發生シタルカ、又如何ニシテ腹膜後ニ發生シタルカノ問題ニ關シテ一應コレヲ追研スルノ要アルヲ感ジ先ヅ從來ノ文獻ヲ繙カンニ。

Wilms ハ腹腔内畸形腫ハ(1)胎兒内胎兒竈入、(2)腹側或ハ會陰部ヨリ外胚葉ノ迷入、(3)「ウォルフ」氏管ノ外胚葉ニ2箇ノ胚腫礎ガ形成セラルルニ依ルト述べ Ahlfeld ハ卵細胞ヨリ分裂放出セラルル極細胞ハ通例消失スル時ニ之ガ受精シ胎兒ノ體內ニ取り込メラレ痕跡的ニ發育スルコトアリ。コノ簡單ナルハ畸形腫ヲ爲シ複雑ナルハ正常ノ胎兒ニ近キモノトナルト云フ。

現今ニテハ Marchand Bonnet 氏ノ分割球說最モ信ゼラル所ニシテ受胎卵細胞ハ其ノ分裂ノ

初メニ於テ分割ヲ營ムコトアリ。カカル場合ニ於テ其ノ分割球ノ一部ガ遺殘シ獨立ニ分化シ行クニ由來スルモノニシテ之ハ下等動物及ビ蛙等ニツキ實驗セラレタルモノナリ。亦 Waldeyer Wilms 氏等ハ原始生殖細胞ヨリ生殖的ニ腫瘍發生スト稱スルモノ之ハ複雑ナル皮様囊腫ニ見ラルルモノニシテ多發性腫瘍ヲ見ルコトアリ。睾丸、卵巢ヲ缺如スルコト多シト云フ。又胎兒ノ萌芽ノ單複ニヨリテ説明スル説トシテ複雑性移植及ビ單純性移植アリ。前者ハ2箇ノ胎兒萌芽ノ内其ノ1ツガ異常ノ發育ヲナスニヨルモノニシテ後者ハ胎兒萌芽ハ單一ナルモノ其ノ一部轉位又ハ絞榨ニヨリ異常ノ部位ニ在シテ腫瘍ヲ發スルコト云フ。然レドモコレニ對シテ Ribert ハ Marchand Bonnet 氏ノ分割説ヲ支持シテ分割球ハ個體ノ一部ナル故ソレヨリ生ズル腫瘍ハ單純性ナルヲ以テ單複ノ區別ヲナス要ナシト云ヘリ。

尙ホ Askanazy ハ Ribert ガ主張セル如ク胚葉ハ分化セズシテ停滯スル場合モアル故畸形腫ニシテ宿主ト同ジ成熟度ニアルモノヲ成熟性畸形腫 Teratoma adultum ト云ヒ宿主組織ヨリ幼キモノヲ未成熟性畸形腫トシテ分類シタリ。Kolb ハ彼ノ剖檢例ニ於テ成熟性畸形腫ハ認メラレドモ腹膜後畸形腫ニシテ其ノ組織ノ分化成熟度宿主ハ若キモノハ發見スルヲ得ズト云ヘリ。然レドモ金子氏ハ彼ノ剖檢ニヨル畸形腫ニ於テ分化セザル横紋筋ヲ認メタルニヨリ Askanazy ノ分類ヲ至當ナリトシ Kolb ノ説ハ異論ナリト云ヘリ。

余モ又未完成ノ横紋筋竝ニ胎生期ノ神經組織ヲ見タリ。

以上記載シタルガ如ク諸家ノ説ハ區々ニシテ混沌トシテ今尙ホ一致ヲ見ズ。只畸形腫ノ發生ハ先天性ニシテ三胚葉ヨリナレル事ハ多クノ學者ノ一致スル所ナリ。

余ノ例ハ所謂三胚葉性腫瘍ノ中甚ダ複雑ナルモノ胎兒ノ筈入トスルニハ不十分ナリ、從ツテ余ハコレガ發生原因トシテ Marchand Bonnet 氏ノ分割球説ヲ以テ最モ説明シ易シト考フモノナリ。亦畸形腫ガ腹膜後ニ發生スル意義ニ關シテハ胎生學上ヨリ Lexer 氏ニヨリテ次ノ如ク論ゼラレタリ。即チ後胃間膜ハ常ニ腹腔ニ於テハ矢狀位ニ附着スルモ後腹壁ト體壁腹膜トガ上方ヨリ下方ニ矢狀方向ヨリ左側ニ進ミツツ癒着スルヲ以テ胃ハ螺旋狀廻轉ヲ營ミ矢狀位ヨリ横位ニ變ズ。故ニ始メ胃間膜ヨリ包圍セラレタル十二指腸及ビ隣臓ハ後體壁ニ癒着スルニ至ル。

左ノ上腹部ニテ胃間膜ノ起始部ニ位スル腫瘍萌芽ハ大網下左方ニ下垂シ側腹腔ト癒着スルニ及ビテ大網ノ皺襞ニヨリテ覆ハレ腫瘍及ビ腹壁腹膜ハ皺襞ニヨリテ境サルニ至リ脊位ヨリモ左側ニ位ス。其ノ後體壁腹膜ハ腫瘍ノ後面ニテ消失シ後腹膜腔トナル。斯ク初ハ腹腔内ニ自由ニ附着セルモノモ後ニハ腹膜後部ニ位シ腹膜後ノ組織ヨリ發生セルガ如ク見ユルニ至ルト。

終ニ本例ハ其ノ臨牀的ノ經過ヨリ觀察スルニ生後5箇月目ニ他覺的ニ發見サレ比較的長期ニ互リテ其ノ大サハ不變ナリシモノガ比較的急ニ腹部膨隆シ一般狀態不良トナリタルハ畸形腫ガ癌變性ヲ起シ更ニ肝臟ニ轉位ヲ起シタルタメナラン。

擱筆スルニ臨ミ恩師田村教授竝ニ濱崎助教授ノ懇篤ナル御指導ト御校閱ニ對シ深く謝意ヲ表シ病歴ヲ貸與下サレタル小兒科教室ニ對シ厚ク感謝ス。

文 獻

- 1) *Buddle*, Centrallbl. f. allg. Path. 2) *Askanazy*, Verhandl. d. Deutsch. Patholog. Gesol. 1907.
 3) 金子, 癌, 第18年, 大正13年. 4) 今, 東京醫學會雜誌, 第10卷, 第3號. 5) *Montgomery*,
 The journal of exp. med. 1896. 6) *Göbell*, Deutsch. Zeitschrift f. Chir. Bd. 61. 7) *Lexer*,
 Langenbecks Archiv Bd. 61, 1901. 8) *Wilms*, Deutsch. Archiv f. Klin. Med. 1895. 9) *Schönholzer*,
 Zieglers Beitr. z. Path. Anat. u. z. allg. Path. Bd. 40. 10) 津田, 日本外科醫學會雜誌, 第21回, 第2號.
 11) 爲森, 癌, 第6年. 12) *Ribbert*, Geschwulstlehre. 1914. 13) *Engländer*, Zentrallbl. f. allg.
 Path. Bd. 13, 1902.

